



2014年度 第1四半期 決算説明会



2014年7月29日
日野自動車株式会社



1. 販売の状況



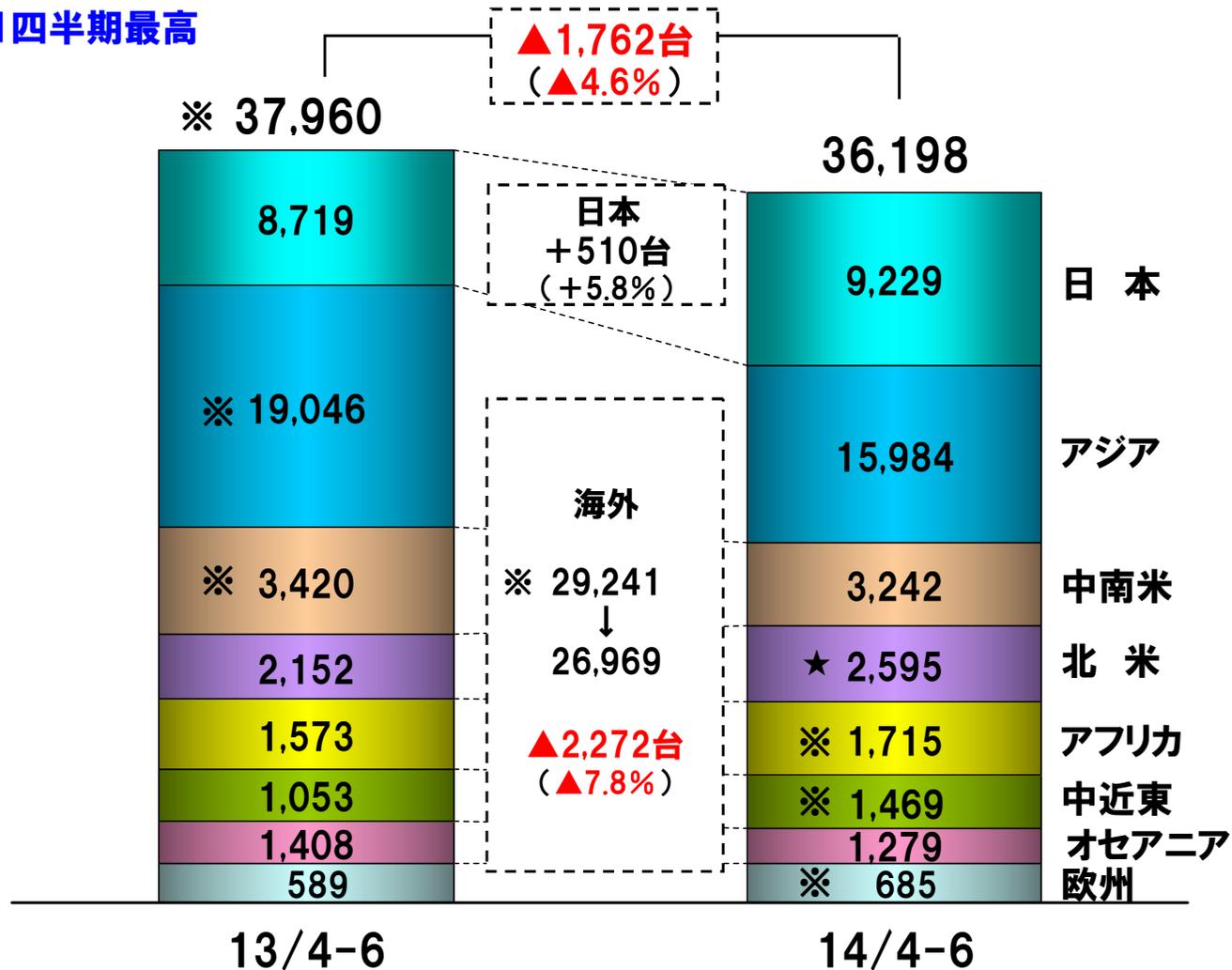
グローバル販売台数

・タイ/インドネシアを主に、アジアは減となる一方、北米・アフリカ・中近東・欧州で過去最高の販売を達成。

★過去最高

(単位:台)

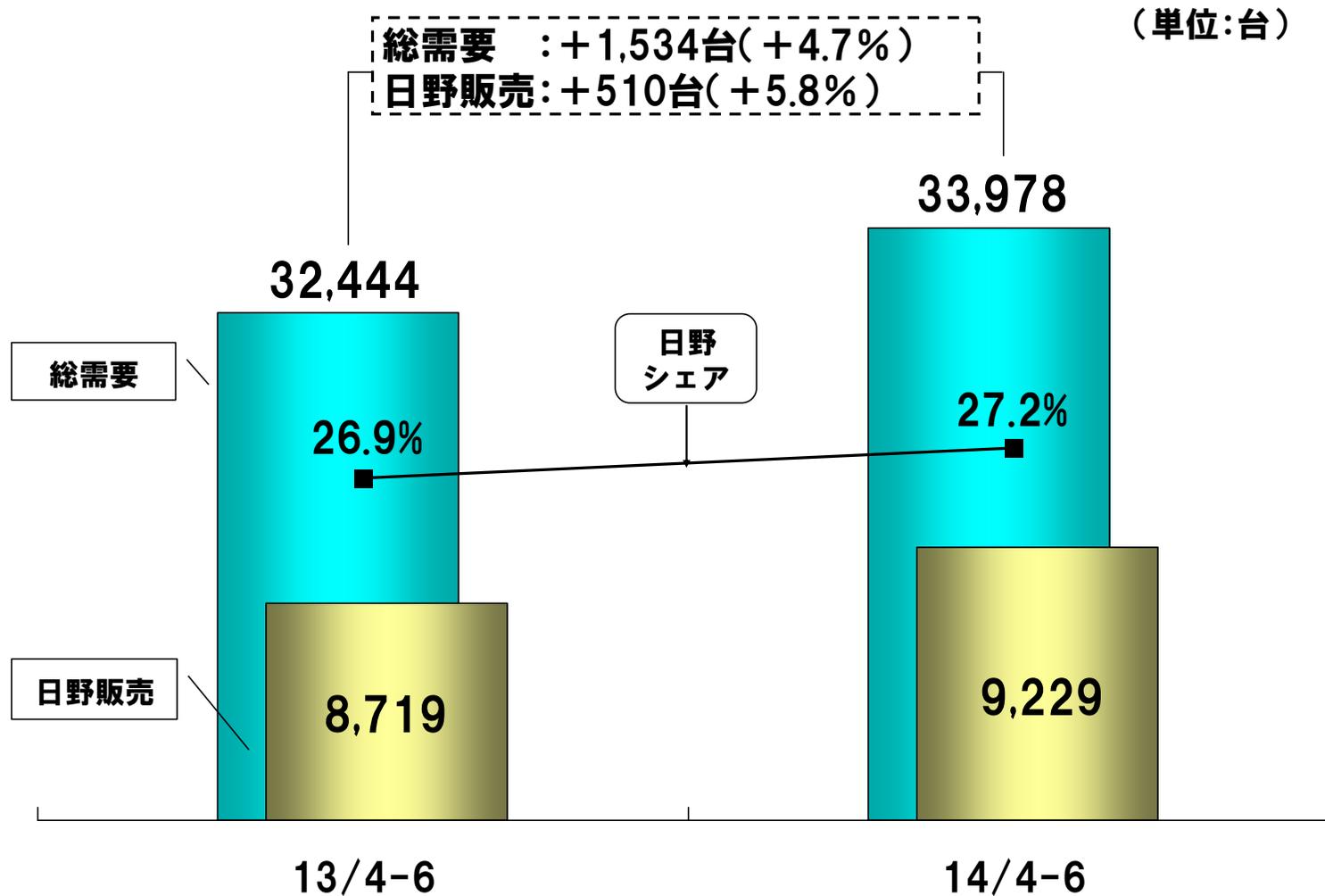
※過去第1四半期最高





国内トラック・バス市場の状況

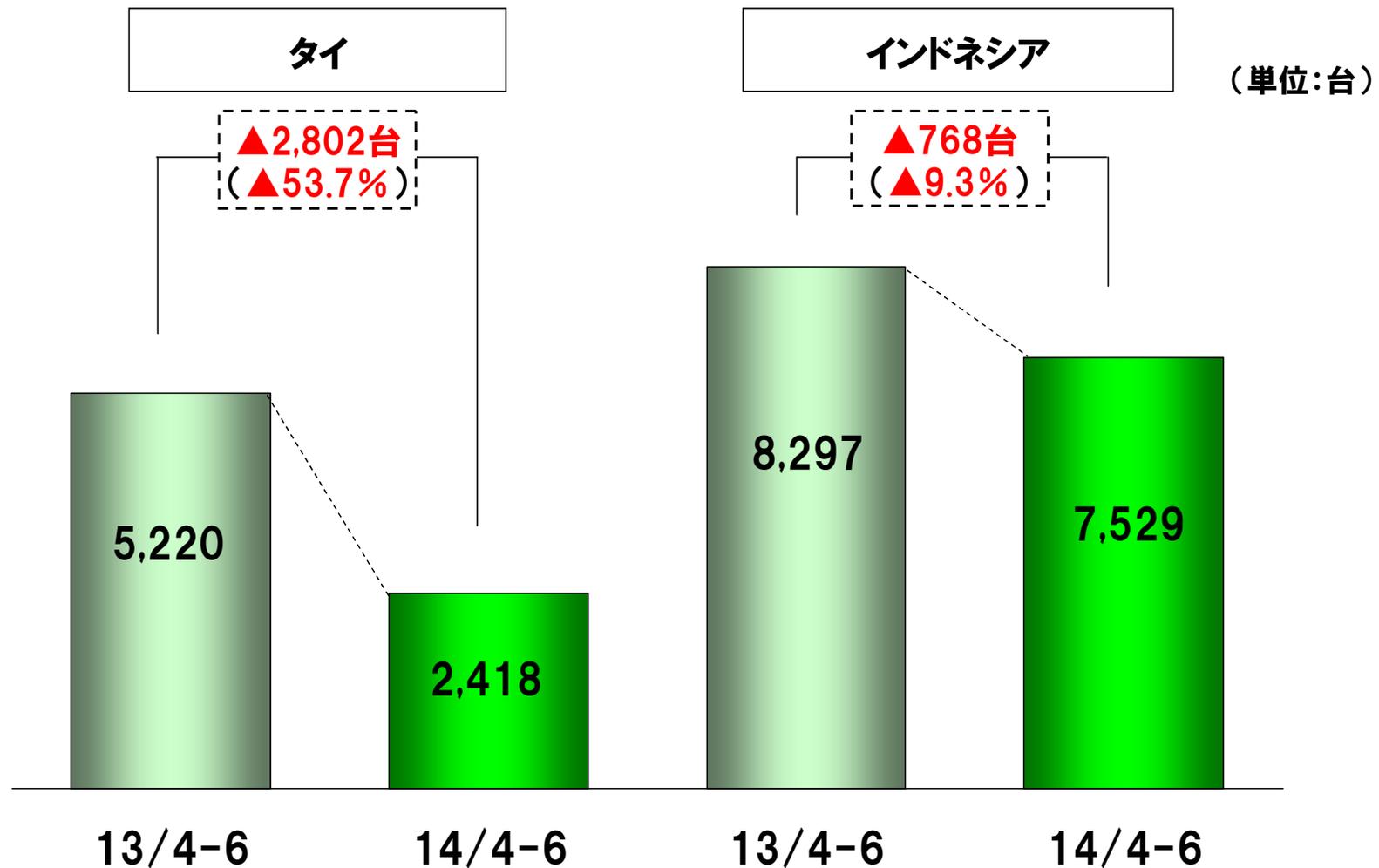
- ・トラック市場：消費増税の反動減は収束、前年を上回る。
- ・日野販売：第1四半期として過去最高シェアを更新。





タイ・インドネシア販売台数

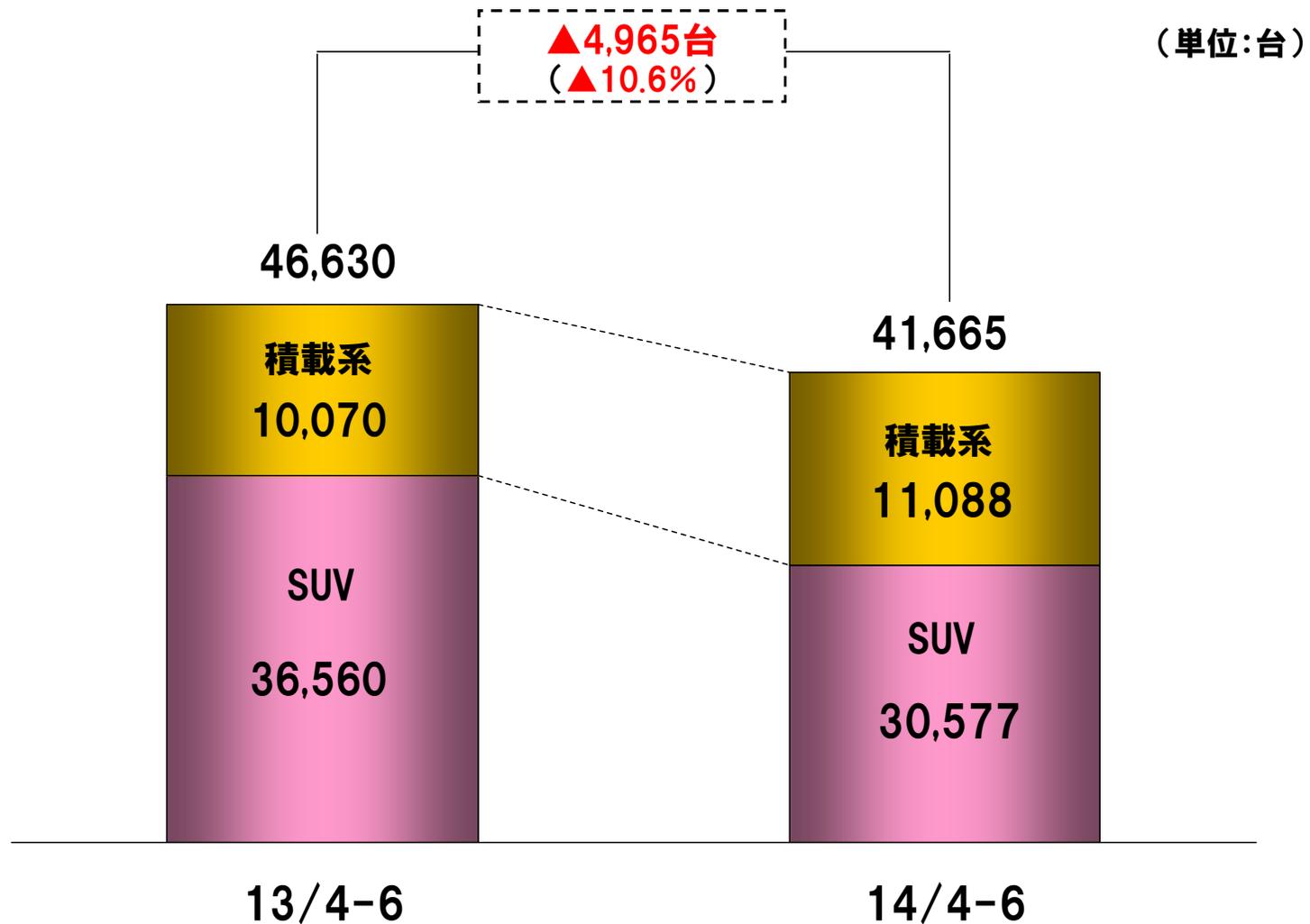
- ・タイ : 引き続き市場は低調、販売減はほぼ想定の範囲内。
- ・インドネシア : 大統領選を控えての購入見合わせ/様子見の中、日野販売は堅調。





トヨタ向け車両売上台数

・SUV(プラド)の販売減により減少。





2. 連結決算の状況



連結損益の状況

★過去最高

※過去第1四半期最高

(単位:億円)

科目	14/4-6	13/4-6	増減	増減率
売上高	3,652	※ 4,139	▲487	▲11.8%
	(6.3%)	(7.7%)	(▲1.4p)	
営業利益	232	★ 320	▲88	▲27.6%
	(6.2%)	(7.4%)	(▲1.2p)	
経常利益	228	★ 307	▲79	▲25.8%
	(3.9%)	(5.5%)	(▲1.6p)	
当期純利益	143	※ 228	▲85	▲37.3%

() は、売上高利益率。

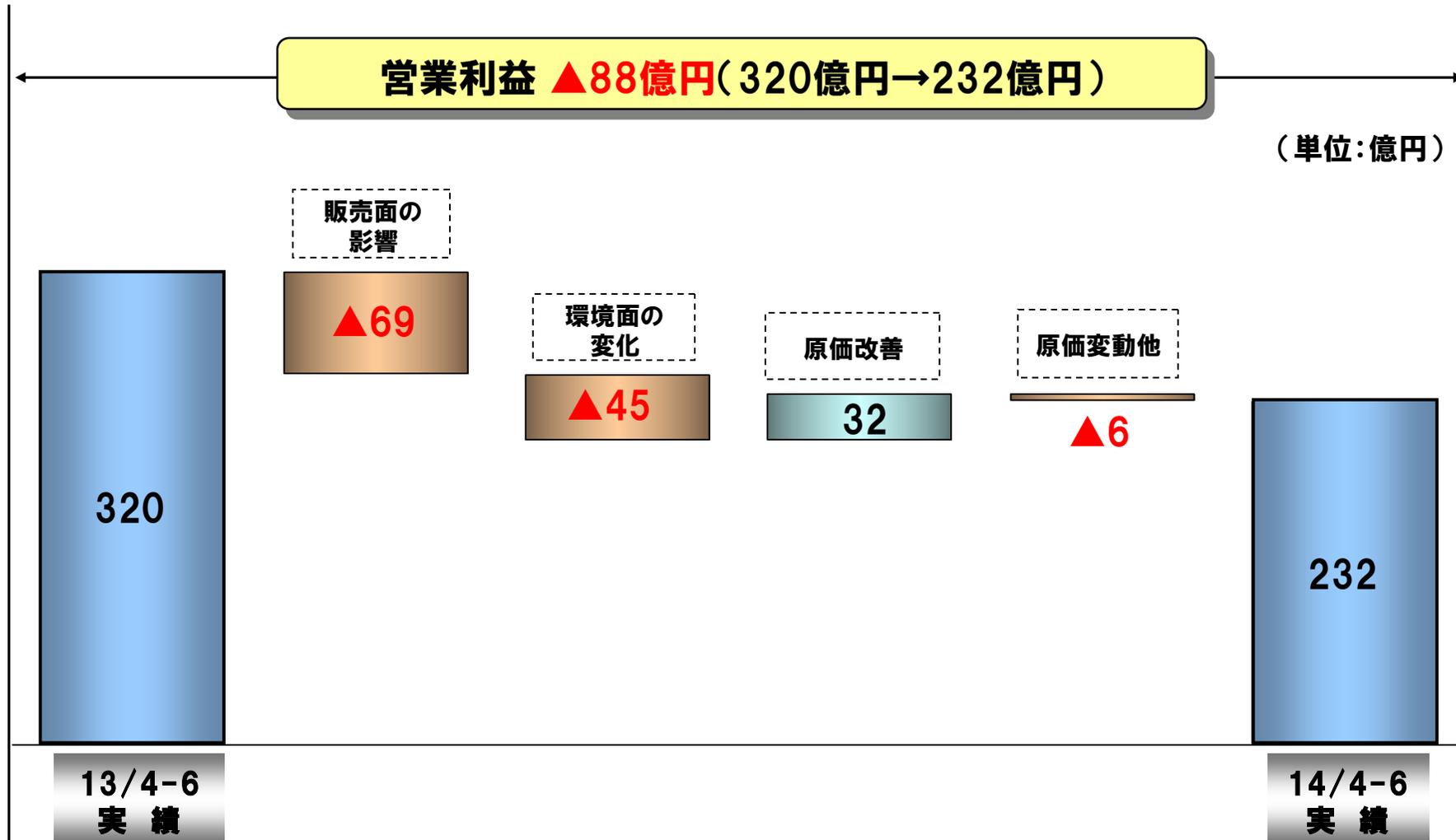
<為替レート>

USD	102	99
THB	3.15	3.35
IDR(100)	0.89	1.01
AUD	94	99



連結営業利益の変動要因

・海外販売台数減、為替・市況の悪化により減益も、原価改善は着実に実行。





所在地別セグメント 売上高・営業利益

- ・主力市場であるタイ、インドネシアでの販売台数減少の影響で、日本・アジアにおいて減収減益。
- 一方、北米を中心としたその他地域の利益は着実に増加。

★過去最高

※過去第1四半期最高

(単位:億円)

	14/4-6		13/4-6		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
日 本	2,908	153 (5.3%)	※ 3,270	★ 295 (9.0%)	▲11.1% ▲362	▲48.2% ▲142
ア ジ ア	876	52 (5.9%)	★ 1,304	※ 77 (5.9%)	▲32.8% ▲428	▲32.3% ▲25
その他地域	★ 473	※ 35 (7.4%)	417	15 (3.7%)	+13.4% +56	2.3倍 +20
調 整	▲605	▲8	▲852	▲67	+247	+59
計	3,652	232 (6.3%)	※ 4,139	★ 320 (7.7%)	▲11.8% ▲487	▲27.6% ▲88

() は、売上高営業利益率。増減欄の%は、対前年増減率。



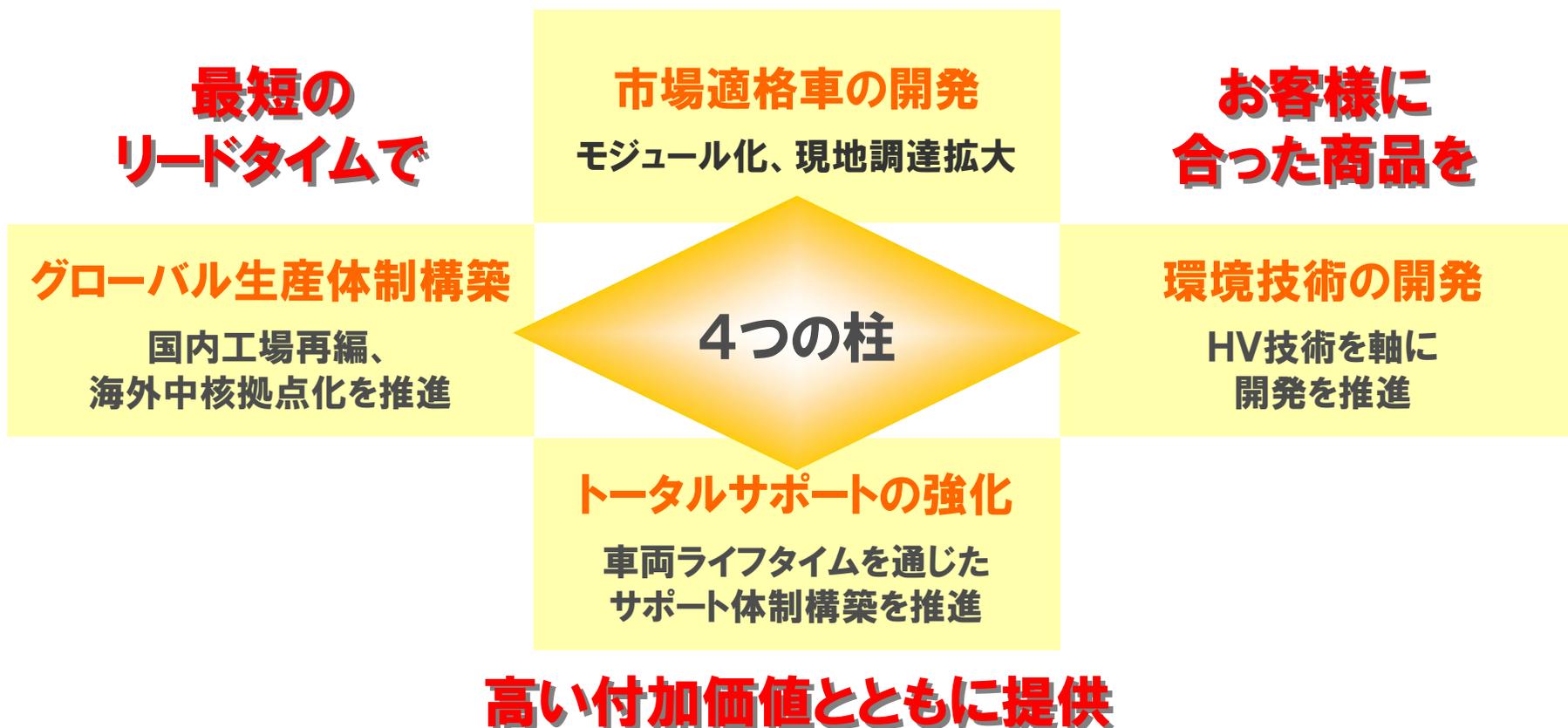
今期の見通しについて： 今後の市場認識と日野の取り組み

<p>国内</p>	<ul style="list-style-type: none">・消費増税に伴う反動減の影響は収束。・需要の底堅さは継続、受注も堅調に推移。	A weather icon showing a sun partially obscured by a cloud, with another cloud above it, indicating a mix of sun and clouds.
<p>海外</p>	<p>【 タイ、インドネシア 】</p> <ul style="list-style-type: none">・市場は一時的な“様子見”の状態。・お客様とのつながりを強固にしつつ、需要回復期には更なる拡販を図る。 <p>【 その他 】</p> <ul style="list-style-type: none">・北米/中近東等をはじめ、各国/各地域で引続きブランド定着・拡販を推進。	A weather icon showing a single, fluffy white cloud.



日野の構造改革： 12年4月に中期経営計画として公表

- 海外に軸足を置いた成長戦略
- 外部環境の変化に強い企業体質へ





構造改革の進捗と来期以降の見通しについて

商品	■ モジュールを活かした市場適格車の投入： 第一弾は14年度内に発売予定	
	■ 国内外で生産供給体制の最適化を推進 <table border="1"><tr><td>国内・・・工程再編 古河・新田</td><td>海外・・・中核生産拠点化 インドネシア</td></tr></table>	国内・・・工程再編 古河・新田
国内・・・工程再編 古河・新田	海外・・・中核生産拠点化 インドネシア	
サービス	■ お客様サポート体制強化を推進	



来期以降の見通し

持続的な成長のための先行投資が当面続くが、モジュールを活かした市場適格車投入以降は、成果が出始める段階に移行。



構造改革の進捗_事例紹介①:生産供給体制最適化

古河工場



シャシ工場着工(14年3月)。
本格稼働に向けて準備中。

新田工場



デフセンターが稼働開始(14年7月)。
エンジン・ミッション・デフ 一貫生産に向け
工程再編を推進中。

インドネシア



小型エンジン機械加工を開始
(12年11月～14年1月に、加工部品を拡大)



構造改革の進捗_事例紹介②:お客様サポート体制の強化

お客様にとっての価値提供を通じて、お客様のビジネスを支える

保有車両アップタイム
最大化

お客様にとっての価値

ライフサイクルコスト
最小化

活動の視点・強化すべき力

整備力

【高品質&リードタイム短縮】

補給力

【安定・迅速・高品質】

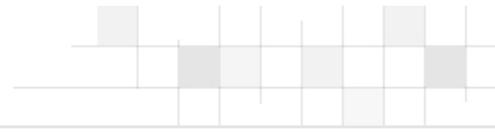
提案力

【メーカーならではの役立ち】

お客様サポート体制強化の進捗

	12年度	13年度	14年度
サービス体制	<ul style="list-style-type: none"> ●'12/4: 青森 本社 ●'12/7: 岐阜 各務原 ●'12/10: 広島 廿日市 	<ul style="list-style-type: none"> ●'13/4: 沖縄 本社 ●'13/7: 長野 松本 ●'13/8: 京都 本社 	<ul style="list-style-type: none"> ●'14/4: 岐阜 高山 ●'14/5: 東京 新狭山
部品供給体制 お役立ち		<ul style="list-style-type: none"> ●'13/4~中南米サービス支援拠点を設置 ●'13/8~中東部品デポを設置 ●'13/2~お客様テクニカルセンターを拡張 	

IR



HINO